

# Prologue

## ジグソーパズルのピース

2022年3月20日(日) フリースクールLuanaでは、**第三回卒業・進級を祝う会**を挙行了しました。そこで私が子どもたちに話した祝辞を紹介したいと思います。



卒業生・進級生の皆さん、ご卒業・ご進級おめでとうございます。

今日は、みんなにジグソーパズルの話をしようと思います。みんなは、ジグソーパズルを知っているかな？ ジグソーパズルのピースはどれも《でっばっているところ》と、《へこんでいるところ》があり、凸凹していますね。そして、1つとして同じカタチはなく、どれもユニークなカタチになっています。

私は、人はこのジグソーパズルのピースと同じだなあ、と思っています。でっばって

いるところは《得意なこと・できること・好きなこと》で、へこんでいるところは《苦手なこと・できないこと・嫌いなこと》です。

じゃあ、なんで人は凸凹があるのでしょうか？

凸凹がなくて全部丸くて、完璧でもいいよね？

それは、**「誰かと繋がるため」だと私は、思うのです。**

同じことでも《得意な人》と《苦手な人》がいます。自分の得意なことは、誰かを喜ばせることや、誰かに必要とされることを味わえる。また、苦手なことでは、得意な人に手伝ってもらうことで、困ったことを解決できて嬉しいし、助けてくれた誰かに感謝することができる。こうして、どちらでも誰かと繋がることで歓びを味わうことができます。

あなたがたたくさんでっばっていても、たたくさんへこんでいても大丈夫。

凸凹の数もあなたにとって誰かと繋がるためのギフトです。

成長することとは、自分のジグソーパズルの出来上がる絵が人生の中で変化していくことです。同じように、自分というジグソーパズルのカタチは日々変化します。そのため、繋がる人も繋がる数も変わっていきます。それにより、自分が最後に創り上げる絵も変わります。

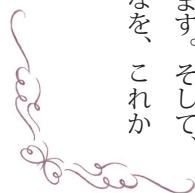
成長の仕方には、へこんでいるところを頑張つて克服して、逆に自分の経験を強みにする人もいれば、へこんでいるところはそのまま、新たに別のどっばりをつくるカタチで成長する人もいます。

また、もう1つの成長のカタチをフリースクール「Egg」では大事にしてきました。

それは、「**そのままのカタチで輝くこと**」です。

凸凹したままでいい。そのままの自分で、自分を磨いて生きる。そのサポートをしてきました。同じパズルのカタチのままでも、パズル自体の色が輝き、グレードアップする  
という成長をすることができます。

今年度、みんなはたくさん自分のピースを磨いて輝きを増したと思います。そして、来年度のみんなの成長も今からとても楽しみです。自分を磨いているみんなを、これからも応援しています。



フリースクール Luana は、魔法の学校です。

なぜなら、魔法のように子どもたちが変身し、成長するからです。これは、創設者である私自身が一番驚いているところです。

私は15年以上、海外や日本で子どもたちの教育に関わってきました。下は3歳の幼稚園年少さんから上は中学3年生まで、幅広い年代を担当し、担任をしてきました。また、担任をはじめ、常勤講師、非常勤講師、学習補助員と、さまざまな立場から子どもたちを見てきました。

そんな私が見てきたどの年代の子どもたちよりも、どこの園・学校で学ぶ子どもたちよりも、ここ Luana の子どもたちの成長や変化は早いのです。それは、まるで蛹が蝶に変身するように、別人の域で子どもたちは変わります。

ここにいくつか子どもの成長の様子をご紹介します。

- ・ お母さんの後ろに隠れてほとんど話さなかった子が、友達や先生との会話の中で中心的な存在となり、機転を利かせた鋭い「突っ込み」をするようになる。
- ・ ゲームに負けるのが悔しくて、怖くて登校を渋っていた子が、『ゲームタイム』になると誰よりもテンションが上がリ、みんなが楽しくなるように場を盛り上げるようになる。
- ・ 「おはよう」と声をかけても、うなずくことや顔を合わせることですらできなかった子が、大きな声で「先生！ おはようございます！ 今日もよろしくお願いします！」と言いながらスクールの玄関を開けて入ってくるようになる。
- ・ 問題が解けなくて「わからない」と30分以上伝えられず固まっていた子が、自分からわからないことを伝えにきたり、堂々と先生を呼ぶことができたりするようになる。
- ・ 2年半で、算数の2年生のかけ算の復習から6年生の計算領域までを終えてしまう。
- ・ 自分の考えをなかなか書くことができなかつた子が、自分の気持ちや考えをわかりやすくまとめることができるようになり、みんなの前で堂々と発表するようになる。
- ・ 自分の想いをみんなにうまく伝えられなかつた子が、自分より年下の子どもたちを注意したり褒めたり、励ましたりできるようになる。

・ 家の人に車で送迎してもらっていた毎日から、自分1人でバスに乗り、スクールに登下校するようになる。

実はこれは、すべて1人のお子さんの成長と変化の様子です。しかし、この子が特別なのではなく、どのお子さんも早い子は2、3カ月ぐらいで、ゆつくりでも1年で、確実に以前の様子をすっかり忘れてしまうぐらいの変貌を遂げます。まさに魔法にかかったかのように、です。

なぜ、子どもたちはこのように変身するのでしょうか。

いいえ、実は、これらは変身しているわけではないのです。

これは、その子本来の姿を外で表現できるようになった、ということなのです。

そして、さらに自分の良さに自信を持ち、自分に磨きがかかった様子になっているのです。

そう、まさに自分らしく輝いている状態です。

自分が自分であっていい。自分らしく生きていい。自分をそのまま表現していい。

I am OK. You are OK. We are OK. (フリースクール Luana 教育理念)

そんな環境を提供されることで、子どもたちは心と身体の不要な緊張をほぐし、ゆるめて、安心してすくすく伸びることができるのです。

スクール名の Luana (ルアナ) は、ハワイ語で《リラックスする、一緒に楽しむ、くつろぐ、満足する》という意味です。子どもたちにとってそのような場であってほしい。そのようなスクールを大事につくり育てる、という願いと意志を持って名前を決めました。

本書は、そんなフリースクール Luana がかけている魔法を皆さんの視点から読み解いていただければ、幸いです。